

2022 年度 地域連携委員会の主な議題

日時	主な議題
5 月 20 日 16:30～	◎紹介受入・他院紹介患者数について ◎紹介率・逆紹介率について
6 月 17 日 16:30～	◎紹介受入・他院紹介患者数について ◎紹介率・逆紹介率について
7 月 15 日 16:30～	◎紹介受入・他院紹介患者数について ◎診療のご案内について ◎クリニック訪問について
8 月 19 日 16:30～	◎紹介受入・他院紹介患者数について ◎診療情報提供料について
9 月 15 日 16:30～	◎紹介受入・他院紹介患者数について ◎紹介率・逆紹介率について
10 月 21 日 16:30～	◎紹介受入・他院紹介患者数について ◎紹介率・逆紹介率について
11 月 18 日 16:30～	◎紹介受入・他院紹介患者数について ◎紹介率・逆紹介率について
12 月 16 日 16:30～	◎紹介受入・他院紹介患者数について ◎診療情報提供料について
1 月 20 日 16:30～	◎紹介受入・他院紹介患者数について ◎紹介率・逆紹介率について
2 月 17 日 16:30～	◎紹介受入・他院紹介患者数について ◎紹介率・逆紹介率について
3 月 17 日 16:30～	◎紹介受入・他院紹介患者数について ◎紹介率・逆紹介率について

(2) 取組内容

ア クリニック等に対する当院医師の紹介

当院の診療科医師を紹介する冊子「診療のご案内」や地域医療部だよりを発行し、医療機関へ送付しました。

イ 地域連携の会について

地域の医療機関といわゆる「顔の見える関係」を築き、その連携を強化することを目的とした地域連携の会ですが、コロナ禍により開催を見送りました。

ウ クリニック訪問

2022 年度は 106 ヶ所のクリニック・病院を訪問しました。

エ 出前講座

高齢者施設や福祉センター等で出前講座を 13 回開催しました。

## 2 来年度に向けて

継続的に地域の医療機関との連携強化を図るとともに地域医療支援病院名称承認に向けて取り組んでまいります。

(文責 書記[地域医療部] 尾上 茂樹)

## 25 地域がん診療連携拠点病院推進委員会

地域がん診療連携拠点病院推進委員会は、「地域がん診療連携拠点病院として体制を整備し、推進する。」ことを目的として、2014年度に発足しました。

### 1 2022年度の実績

#### (1) 委員会開催実績

2022年度は、委員会を6回開催しました。以下に委員会での主な議題を記載します。

2022年度 地域がん診療連携拠点病院推進委員会の主な議題

日時	主な議題
5月10日 16:30～	◎地域がん診療連携拠点病院の指定要件に規定される診療実績について
8月9日 16:30～	◎地域がん診療連携拠点病院の指定要件に規定される診療実績について ◎地域がん診療連携拠点病院の指定要件の現状について ◎がん診療連携拠点病院等の整備について
9月13日 16:30～	◎地域がん診療連携拠点病院の指定要件に規定される診療実績について ◎令和3年度がん診療連携拠点病院機能強化事業費補助金の内示について
10月11日 16:30～	◎地域がん診療連携拠点病院の指定要件に規定される診療実績について ◎地域がん診療連携拠点病院の指定更新に関する資料提出について ◎2022年度神奈川県がん教育外部講師育成WEBセミナーの開催について
11月8日 16:30～	◎地域がん診療連携拠点病院の指定要件に規定される診療実績について ◎地域がん診療連携拠点病院の指定更新に関する現況報告書の提出について
2月14日 16:30～	◎地域がん診療連携拠点病院の指定要件に規定される診療実績について ◎地域がん診療連携拠点病院の指定状況について ◎多地点合同メディカル・カンファレンスのご案内

#### (2) 取組内容

地域がん診療連携拠点病院の指定継続

井田病院における地域がん診療連携拠点病院の指定期間については、2016年4月1日から2027年3月31日までの11年間となっておりますが、指定要件を満たしているかの現況報告は毎年行っております。よって、毎月開催される委員会の議題として診療実績(指定要件)の確認は欠かさず行っております。

主な指定要件は次のとおりです。

### 【診療実績】

- ◎院内がん登録数 500 件以上
- ◎悪性腫瘍の手術件数 400 件以上
- ◎がんに係る化学療法のべ患者数 1000 人以上
- ◎放射線治療のべ患者数 200 人以上
- ◎緩和ケアチームの新規介入患者数 50 人以上

### 【診療従事者】

- ◎常勤専従の放射線治療医師
- ◎常勤専任の放射線診断医師
- ◎常勤の病理診断医師
- ◎放射線治療室に専任の常勤看護師 1 名以上
- ◎専従の化学療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の看護師
- ◎専任の細胞診断に係る業務に携わる者
- ◎「相談支援センター相談研修・基礎研修」(1)～(3)を修了した専従及び専任の相談支援に携わる者
- ◎国立がん研究センターによる研修を受講した専従の院内がん登録を担う者 1 人以上

## 2 来年度に向けて

平成 28 年 4 月 1 日から令和 9 年 3 月 31 日までの 11 年間、地域がん診療連携拠点病院として指定を受けておりますが、毎年現況報告の提出を求められますので、今後も指定要件についてはクリアしていかなければなりません。

また、ただ指定要件を充たせばよいだけではなく、当院は『かわさき総合ケアセンター』があることから、検診から診療、在宅医療から週末期医療までを行う「シームレスな医療」を提供する病院として更に力を発揮していかなければなりません。

次年度も委員の皆さんを中心として、病院が一丸となり、「地域がん診療連携拠点病院」を推進してまいります。

(文責 書記[地域医療部] 尾上 茂樹)

## 26 キャンサーボード

キャンサーボードとは、多職種のプロが集まり患者さんの治療方針を多方面から考え決定する会議です。2014 年以前は、基本的には単科のみで治療方針を決定し、疾患自体が多臓器にわたる場合のみ複数科の医師が集まって治療方針を決定しているにすぎませんでした。しかし、2014 年度からは、各科のカンファレンスになるべく複数の科の医師が参加するようになっただけではなく、看護師や病理検査、放射線診断部門など多部門で治療を検討できるようにしました。また、最初の治療のみならず治療の過程における二次治療決定をも、一時治療評価後にしっかりと検討していくように組織化されました。病理組織像を検討材料に取り入れている、臨床病理キャンサーボードも呼吸器センターや消化器センターが取り入れ、これまで実施してきております。

今後も、院内の多職種連携をつよめ、診療の質向上に取り組んでいきたいと考えます。

#### ① 病院全体がん診療連携協議会

多臓器にまたがる症例や原発不明癌、特殊な生物学的進展を示すものを複数科の医師および他職種で話し合う最も大きながん診療連携協議会。病理検査部や放射線診断部も参加する。年1～2回開催。

#### ② 部門臓器別がん診療連携協議会

それぞれのセンターあるいは診療科を中心に行うが、その他に診療科例えば放射線診断部や緩和ケア科を巻き込み、また看護師・薬剤師・栄養士などの多職種も参加し、多方面からの検討を行う。

##### 2-1 消化器がん診療連携協議会（原則2回/週）

外科の手術前に消化器および乳腺悪性腫瘍の症例を多職種で検討。また病棟入院後の悪性腫瘍患者についても多職種で集まって治療方針を検討している。

##### 2-2 乳腺がん診療連携協議会（原則1回/週）

##### 2-3 呼吸器がん診療連携協議会（原則1回/週）

#### ③ 臨床病理がん診療連携協議会

##### 3-1 消化器センター臨床病理がん診療連携協議会

##### 3-2 乳腺臨床病理がん診療連携協議会

##### 3-3 呼吸器センター臨床病理がん診療連携協議会

（文責 〔腫瘍内科部長〕西 智弘）

## 27 化学療法管理委員会

2022年度は月例として8回開催（うち1回は回議にて実施）し、新規・変更レジメンの審査、承認を行いました。2022年3月末で、10診療科から約305レジメンが登録されています。新たな試みとして、抗がん剤曝露対策の強化を図りました。手術室における肝動脈化学塞栓療法は、これまで手術室内での抗がん剤ミキシングを行っていましたが、薬剤部内の安全キャビネットでのミキシングを行う運用に変更しました。また原則全ての抗がん剤において閉鎖式接続器具を使用することで、より一層の曝露対策強化を行いました。

委員会で承認されたレジメン及び、抗がん剤投与に関するマニュアルは、電子カルテシステムの初期画面に掲載しているため、どの職種でも閲覧可能です。2022年度より化学療法関連マニュアルをマニュアル関連フォルダ一箇所に踏襲し、血管外漏出等の緊急時によりアクセスしやすいよう改めました。また、レジメンについては井田病院ホームページにも掲載しています。

（文責 書記〔薬剤部〕内田 昌）

## 28 クリニカルパス委員会

本委員会は医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、栄養士、理学療法士、医事課より21名の委員で構成され、新規クリニカルパス（以下パス）の立案や評価、運用中パスの問題点等を検討しています。

2022年度は糖尿病内科より4件、泌尿器科より3件、婦人科より1件、腎臓内科より1件の申請があり、8件が

承認となりました。

院内全体のパス適用率は31.1%でした。委員会では目標である院内パス適用率40%以上を目指し、今後も新規パスの立案、質の向上を図って参ります。

(文責 書記 [医事課] 横倉 悦美)

## 29 褥瘡対策委員会

2022年度は、奇数月に多職種で定例会議を開催し、マニュアル班・データ班・研修班に分かれ活動しました。マニュアル班では、診療報酬改定に伴い、『褥瘡診療計画書』・『DESIGN-R2020に基づいた褥瘡評価シート』、『褥瘡治療に用いられる当院採用薬』の見直しを行いました。データ班では、リンクナースが中心となり、褥瘡のほか、スキンケア・医療機器関連圧迫創傷の発生状況を把握することに取り組みました。研修班では、全職員向けに「スキンケア勉強会」の企画・運営を行いました。1月5日に開催し、安西医師・牛込主任が講師を務め、43名の参加がありました。

また、チームラウンドとして、褥瘡回診を毎週木曜日午後実施しました。今年度の褥瘡発生率は0.073%（前年度減0.001）で、院内発生件数は63件でした。

(文責 副委員長 [看護師長] 大溝 茂実)

## 30 NST(栄養サポートチーム)運営委員会

入院患者個々の症例・病態に応じて適切な栄養管理を実施することを目的とし、2005年度2月よりNST運営委員会を立ち上げました。2011年2月に栄養サポートチーム加算の施設基準を届出、2011年3月から加算の算定を開始しました。2021年度は専任の医師2名、看護師4名、薬剤師2名、管理栄養士1名、十歯科医師の体制で回診を行いました。管理栄養士においては専従から専任となり、1日15人以内の介入となりました。また、歯科医師が回診に参加することにより2016年度から新設された歯科医師連携加算(50点)を2018年度より算定開始しています。2020年度の診療報酬改定にて、条件付きではありますが結核病棟における加算も認められ、7月の結核病棟再開から回診を行っています。

現在、毎週火曜日に回診・カンファレンスを実施し、低栄養患者への介入だけではなく、経腸栄養療法患者の栄養管理、手術予定者、抗がん剤治療予定者の栄養低下の予防のための介入も行っています。介入の結果、経口摂取だけではなく、経腸栄養や静脈栄養に関する介入が増加しています。

院内スタッフに向けては院内勉強会を4回開催し、知識の向上を図りました。参加者は延べ111名でした。

回診患者数(延べ人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介入数	55	51	53	59	72	58	59	74	58	57	57	43	696
加算数	50	42	49	50	59	54	41	61	49	43	40	31	569

(文責 委員長 [内科担当部長] 栗原 夕子)

### 31 嚥下・口腔サポートチーム部会

NST 運営委員会の委員会内組織として活動を継続しています。入院患者への質問紙による嚥下スクリーニング検査と口腔アセスメント(OHAT-J)は、ほぼ全患者に継続して行っており嚥下機能や口腔内の状態を早期に把握することが可能になっています。今後は看護師による改訂水飲みテスト施行が対象患者に行えるよう勉強会を繰り返し施行し、嚥下機能評価に対する更なる質の向上を目指していきたくと考えます。また、2022年4月から多職種でのカンファレンスを実施しながら摂食嚥下機能回復体制加算を算定し計359件の算定を行うことができました。今後も多職種で連携し病院全体で嚥下障害患者に対するケア向上を目指し活動を行っていきたくと考えます。

(文責 [リハビリテーションセンター担当係長] 谷内田 綾)

### 32 給食委員会

給食委員会は隔月第3木曜日に開催し、2022年度は6回開催しました。

委員の構成は医師4名、看護師1名、栄養士5名、オブザーバー給食委託業者2名の計12名となっています。

栄養管理の向上と充実、適正な病院食運営を図る目的で協議しました。毎回、検食率、検食簿記載内容と記載内容への対応を報告、給食材料費や患者給食数・栄養指導件数、給食業務委託状況、誤配膳や異物混入などのインシデントを報告しました。

嗜好調査の実施案を検討、10月に実施した食事アンケート結果を報告しました。満足度は「満足している」と答えた人が昨年度46.2%と比較し、38.6%と減少しましたが、「満足していない」「しかたない」と答えた人が減少し、「満足している」「普通」と答えた人が84.3%と昨年度の78.3%と比べ増加しています。回答の理由としてはおかずの味付けが「薄い」と答えた人の割合が最も多くみられました。当院では日本人の食事摂取基準に基づき、塩分量を設定しているため、普段摂取している食事よりも塩分量の少ない食事になっていることが考えられます。薄味でもおいしい食を提供できるよう、調理方法の工夫や、栄養指導などを通して発信していきます。

今後も要望等を検討し、献立作成に反映させ、よりよい食事を提供することで患者の満足度を向上させるよう努めていきたくと思います。

(文責 副委員長[食養科長] 北岡 聡子)

### 33 職員研修委員会

教育研修に関する企画、実行、評価による職員の資質の向上を目的とし、医師、看護師、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、管理栄養士、理学療法士、事務職員で構成されています。2022年度も例年同様に各委員会が中心となり、人材育成を推進するため積極的に研修を実施しました。

(文責 書記[庶務課] 府中 仁)

### 34 研修管理委員会

2022年度の初期研修医は、2年目は、池瞳先生、王野添鋭先生、廣瀬怜先生、藤塚帆乃香先生、藤原修先生の5名でした。1年目は、落合志野先生、谷岡友則先生、西本寛先生、山内智喜先生、山田園子先生の5名でした。

委員会では、初期臨床研修医のプログラム修了判定や、履修実績及び今後の履修計画等の報告をいたしました。

(文責 書記[庶務課] 府中 仁)

### 35 看護師特定行為研修部会

看護師特定行為研修部会は、特定行為に必要な手順書の作成や特定行為受講者の支援を行っています。2022年度は、特定看護師の実践に関わる記録用紙等の整備を行い、共有しました。

(文責 委員長[副院長] 鈴木 貴博)

### 36 図書委員会

当委員会は、医療情報の収集及び提供をはかり、職員の日常業務の向上に資する適切な図書室運営を推進するために設置されました。

2022年度は計5回の図書委員会を開催し、例年同様各部署から挙げて頂いた購入希望図書・雑誌・各種データベース等について協議しました。当年度より NACSIS-CAT/ILL(国立情報学研究所[NII]が実施しているデータベースの相殺システム)を導入しました。それにより、文献の取り寄せサービスが格段に向上しました。また、文献の取り寄せを公費負担とすることで、課題として挙げられていた洋雑誌価格高騰への課題解決と相成りました。

今後も当委員会は皆様の教育・研究支援をしてまいります。どうぞご協力の程よろしくお願い申し上げます。

(文責 委員長 [教育指導部長] 金澤 寧彦)

### 37 機種・診療材料選定委員会

当委員会は、医療機器の仕様の決定や診療材料の採用に関する審議を行っています。

2022年度の委員会の開催と、審議を経て購入した機器、採用した診療材料は次表のとおりです。

(文責 書記[庶務課] 山田 さおり)

2022年度 機種・診療材料選定委員会における審議について

回	日時	医療器械の機種選定		診療材料の審議	
		番号	機器名	番号	診療材料名
第1回	4月25日	1	ガンマ・ファインダーⅢ		<なし>
		2	血管撮影X線診断装置一式		
第2回	9月5日	1	ディスクパブリッシャー		<なし>
		2	除細動器		
		3	全身麻酔器		
		4	透析装置		
第3回	11月15日	1	腹腔鏡用スコープ		<なし>
		2	送信機		
		3	血管撮影装置		
第4回	3月23日		<なし>	1	超短時間判定用生物学的インジケータプロセスチャレンジデバイス
				2	ケアガーゼ4折 滅菌済
				3	ケアガーゼ8折 滅菌済
				4	ケアガーゼX 滅菌済

### 38 市民交流・サービス向上委員会

本委員会はボランティア活動を支援し、患者サービスの向上、療養環境の向上や市民の方々との交流を図る事を目的として「教育研修・調査改善部会」、「投書部会」、「院内環境改善部会」、「ボランティア部会」の4つのグループ体制で、次のとおり活動を行いました。

#### 1 教育研修・調査改善部会

##### (1)教育研修担当

9月15日、(元 井田病院 医事課長) 片野 修司氏を講師として「高齢者の特徴と接遇」をテーマとし、接遇研修を実施しました。

##### (2)待ち時間調査担当

外来診療・会計待ち時間調査を2回実施しました。

##### ア 外来診療待ち時間調査

実施日	R4年7月4日～8日	R4年12月12日～16日
平均対象者数	443.8人	528.2人
平均待ち時間	19分56秒	19分39秒

#### イ 外来会計待ち時間調査

実施日	R4年7月4日～8日	R4年12月12日～16日
平均対象者数	369人	414.4人
平均待ち時間	19分01秒	23分14秒

#### (3)満足度調査担当

外来・入院患者・職員満足度調査を実施し、12月に満足度調査報告会を行い、院内職員に対して報告いたしました。

対象者	外来患者	入院患者	職員
実施期間	7月11日、12日、15日	7月11日～9月2日	
有効回収率	98.4%	43.3%	62.4%
総合満足度 (満足+やや満足)	88.4%	93.4%	45.5%

## 2 投書部会

毎週火曜日に外来、各病棟フロアに設置している投書箱から投書を回収し、水曜日の午後に部会を開催しました。また、頂いたご意見は担当部署に回答や対応を依頼するとともに、三役会議にも投書内容を伝え、回答を返書又は院内に掲示しました。

## 3 院内環境改善部会

院内・院外の環境の整備と病院利用者の視点で院内の快適性を配慮し安全で安らぎの療養環境を提供することを目標に活動し、院内の掲示物や清掃の点検を行いました。12月20日には職員による病院周辺の美化活動を実施しました。

## 4 ボランティア部会

今年度も新型コロナウイルス感染症対策による入館制限に伴い、院内のボランティアの活動が自粛となり、屋外での園芸活動のみ実施いたしました。ボランティア登録者と連絡を取りながら、ボランティア活動を継続しました。

<年間行事>

- ※通年活動
- ・屋外ガーデンでの園芸活動
  - ・屋外ガーデンの植物の写真を、外来エリアに展示

7月	七夕笹飾りつけ
10月	東京交響楽団による院内コンサート
12月	クリスマスの飾りつけ
1月	お正月の飾りつけ
3月	吊るし雛の飾りつけ

(文責 委員長[副院長] 篠山 薫)

### 39 ホームページ・広報委員会

ホームページ・広報委員会は、井田病院に関する情報を市民等に広報することを目的として設置しています。所掌事務は、ホームページの管理・運営等に関する事、病院広報誌「井田山」の発行に関する事、病院の広報に関する事です。市民や医療従事者等に向け、正確かつ分かりやすい情報提供を行えるよう定期的にホームページの保守管理及び更新を行っています。また、井田病院の情報をタイムリーに提供するため、委員で活発な情報収集と検討を行い、情報の発信を適時行っています。

2022年度は委員会を4回開催し、病院広報誌「井田山」は4回発行しました。

号数	発行日時	ページ数	主な記事
第74号	4月28日	4	○病院長のご挨拶 ○新任医師を紹介いたします ○患者満足度調査の結果報告について ○芝生広場が完成 ○市内産「のらぼう菜」を使用した食事を提供しました
第75号	8月10日	4	○災害拠点病院に指定されました ○看護の日のイベントを開催しました ○薬剤部のご挨拶 ○診療科紹介 ～皮膚科～ ○がん・総合健診センターを開設しました ○熱中症対策について ○食中毒に注意しましょう
第76号	11月30日	4	○東京交響楽団による弦楽四重奏コンサートが開催されました ○診療科紹介 ～乳腺外科～ ○中原区民祭に出展しました ○市内産の多摩川梨を使った食事を提供しました ○デマンド交通「チョイソコかわさき」の実証実験が開始されました
第77号	1月31日	4	○年頭のご挨拶 ○診療科紹介～耳鼻咽喉科～ ○患者満足度調査を実施しました ○当院のマンモグラフィ検査をご紹介します ○川崎市内産のブロッコリーを使った食事を提供しました ○人間ドックオプションに大腸内視鏡検査が加わりました ○総合消防訓練を実施しました

(文責 書記〔庶務課〕中本 琴音)

### 40 臨床検査管理委員会

2022年度の当委員会は、2月に1回開催しました。検討内容として、医師・看護部と検査科の活発な意見をもとに、業務改善に向けて話し合いました。

おもな検討内容は下記のとおりです

- ・白血球5分画実数報告についての運用について検討し了承されました。
- ・病理診断結果見落とし防止についての運用について検討し了承されました。
- ・CAPD液等穿刺液の報告方法について運用について検討し了承されました。

今後も本委員会を通じて、各診療科と看護部および検査科で、密接に意思疎通を図りながら、当院の診療体制をより充実したものにしていきたいと考えています。

(文責 [検査科担当課長] 佐野 剛史)

#### 41 外来診療委員会

外来診療委員会は、外来運用の安定稼働や患者サービス等の外来診療環境の向上を図ることを目的として設置しています。

2022年度は、全2回の開催となりました。会計待ち時間について、予約なしで紹介状を持参した方の受け入れ確認についてなど、外来診療に係る諸課題について改善に向けて検討を行いました。

当委員会では、今後も引き続き、外来診療に係る様々な諸課題について、改善に向けて検討を行ってまいります。

(文責 書記 [医事課] 五十嵐 大介)

#### 42 手術部委員会

手術部委員会は医師、看護師、放射線技師、臨床工学技士、薬剤師、中央滅菌室、庶務課、医事課、SPDのメンバーで構成され、手術室における物品管理や滅菌管理を含む様々な課題に対応しております。

今年度は手術件数、オープン枠使用状況、使用期限切迫品の報告の他、新型コロナへの対応、手術枠、インシデント、手術データの管理方法などにつき検討・実施しました。

(文責 [麻酔科部長] 中塚 逸央)

#### 43 HCU 委員会

2017年度までは手術室・ICU・CCU 運営委員会として運営されていましたが、2018年度よりHCU委員会となりました。

当委員会は偶数月に開催しており、稼働状況の報告とともに入退室基準等、HCU についての様々な課題について検討を行い、HCUの円滑な運営に努めております。

2022年度は入院時重症患者対応メディエーターの介入報告やHCU当番の交代などについて確認を行いました。

2022年度の具体的なHCUの運営状況につきましては「集中治療室」の項をご覧ください

(文責 委員長 [麻酔科部長] 中塚 逸央)

#### 44 院内がん登録運用委員会

「院内がん登録」とは、国が定める「がん登録等の推進に関する法律」に基づき、外来、入院を問わず、当院を初診で診断、治療の対象となった悪性新生物と一部の悪性以外の新生物に対して、情報を収集し登録する仕組みです。

「がん診療連携拠点病院」である当院では必須要件として、毎年、「院内がん登録」業務を行い、作成したデータを院内がん登録データ、全国がん登録データとしてそれぞれ国と県へ提出しています。

2022年の院内がん登録件数は、1,166件で、予後調査は501件実施しました。

「院内がん登録の運用上の課題の評価及び活用に係る規定の策定等を行う機関」として本委員会は設置し、今年度は1回開催しました。院内がん登録業務を実施している診療情報管理室が、院内の各部署で患者家族等から電話等で得られた予後情報を把握する際の運用上の課題、医師へのTNM分類のカルテ記載の周知について、議論を行いました。

《院内がん登録に関する実績》

	2020年	2021年	2022年
院内がん登録件数	1,254	1,030	1,166
予後調査件数	607	227	501

来年度も、引き続き「院内がん登録運用マニュアル」に則ったがん登録の実施、他病院と比較した井田病院のがん診療における立ち位置に加えて、院内がん登録オプアウト運用手順についても、委員会で議論を行ってまいります。

(文責 委員長[副院長] 掛札 敏裕)

#### 45 地域包括ケア病棟運営委員会

地域包括ケア病棟は、急性期医療が終了した後に、リハビリテーションや訪問介護指導等を行い、在宅療養への退院支援を目的として平成28年4月に開設され、平成28年11月1日から、地域包括ケア病棟入院料2を算定する病棟として正式運営となり、今日に至っています。

2022年度は委員会を8回開催しました。今年度の診療報酬改定で、入院患者に占める一般病棟から転棟した患者の割合が6割未満となったことを受け、2022年3月現在で満たされていない6割未満の院内転棟率について、9月までにどのようにして達成するか活発に議論を行いました。具体的な活動として、院内転棟率の電子カルテの初画面掲示板への掲載、並びに直接入院患者の増加等、今後の地域包括ケア病棟の運用についての院内全体へ周知等を行いました。その結果、関係者各位の努力と連携により、9月までに6割未満達成をすることができました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

2023年度は、6割未満の院内転棟率を前提に、収益向上のためにどのようにして稼働率を上昇させるか、また、そのためにどのような患者を受け入れればよいか等の議論を行っていく予定です。

今後とも地域との架け橋となる病棟として、近隣の病院や地域の開業医、訪問介護ステーション等と協力して、在宅療養の実現に向けた地域包括ケア病棟の運用を行っていきたいと考えております。

(文責 委員長 [整形外科部長] 水谷 憲生)

## 《地域包括ケア病棟施設基準に関する実績》

### 1 リハビリの実施状況

	対象患者 実数	延べ 対象期間	実施単位数	平均単位数	一日の 平均対象者数
5月	18	240	640	2.67	6.0
6月	18	239	671	2.81	7.0
7月	24	325	708	2.18	8.3
8月	23	291	686	2.36	8.1
9月	21	292	724	2.48	7.6
10月	25	405	975	2.41	10.5
11月	22	293	732	2.50	8.0
12月	19	238	594	2.50	6.5
1月	18	199	464	2.33	5.2
2月	22	367	860	2.34	10.6
3月	24	326	794	2.44	8.9

施設基準 2.0 以上

### 2 在宅復帰率

	在宅復帰率	退院者総数
5月	89.9%	57人
6月	88.6%	51人
7月	87.7%	54人
8月	87.8%	50人
9月	86.1%	58人
10月	84.4%	56人
11月	83.2%	51人
12月	83.4%	70人
1月	82.6%	49人
2月	80.9%	66人
3月	83.5%	63人

施設基準 72.5%以上

### 3 重症度、医療・看護必要度

	7対1病棟群	地域包括基準
5月	33.10%	14.10%
6月	34.60%	20.00%
7月	31.40%	20.90%
8月	32.20%	14.10%
9月	32.80%	10.70%
10月	37.50%	17.20%
11月	36.40%	14.90%
12月	35.00%	21.20%
1月	36.00%	17.30%
2月	37.10%	20.80%
3月	32.80%	21.50%

施設基準 28%以上 8%以上

### 4 病床稼働率

	入院患者延数	一日平均患者数	稼働率	在院日数
5月	980	31.6	70.30%	16.6日
6月	902	30.1	66.80%	17.2日
7月	1008	32.5	72.30%	15.6日
8月	1010	32.6	72.40%	18.5日
9月	873	29.1	64.70%	14.3日
10月	868	28	62.20%	14.0日
11月	867	28.9	64.20%	13.7日
12月	1091	35.2	78.20%	14.9日
1月	988	31.9	70.80%	15.5日
2月	1146	40.9	91.00%	17.1日
3月	1101	35.5	78.90%	15.0日

## 《地域包括ケア病棟への転入実績》

### 1. 病棟別転入件数

病棟名	3西	4東	5西	5東	6東	7西	PCU	合計
件数	2	55	23	141	84	89	0	394

### 2. 診療科別転入件数

診療科名	内科	呼吸器内科	腎臓内科	糖尿病内科	肝臓内科	消化器内科	循環器内科	リウマチ科	緩和ケア内科
件数	63	48	45	26	1	35	25	22	1
診療科名	外科	乳腺外科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	耳鼻咽喉科	歯科口腔外科	合計	
件数	4	0	119	1	4	0	0	394	

## 46 緩和ケア委員会

緩和ケア委員会は、「緩和ケアの提供、運用が適切、円滑に行われるよう体制の整備、推進を図る」ことを目的として、2017年度に新たに発足しました。2022年度は、緩和ケア研修会、緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会、かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会の準備運営を緩和ケア委員会が担い、計9回委員会を開催致しました。

### 1 2022年度の実績

#### (1) 委員会開催実績

2022年度は、委員会を9回開催しました。以下に委員会での主な議題を記載します。

2022年度 緩和ケア委員会の主な議題

日時	主な議題
5月10日 16:00～	◎令和4年度緩和ケア委員会名簿について確認 ◎緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会及びかわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会の開催日時及び担当割振について確認 ◎研修会開催前及び当日の主な業務について確認 ◎第1回緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会内容及び講師・運営担当確認
6月7日 16:00～	◎第1回緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会の報告 ◎第1回かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会の内容及び講師・運営担当確認 ◎研修会予定の確認
7月5日 16:00～	◎第1回かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会の報告 ◎第2回緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会の内容及び講師・運営担当確認 ◎第2回かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会の内容及び講師・運営担当確認 ◎「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」受講率状況確認

9月6日 16:00～	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎第2回緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会の報告</li> <li>◎第2回かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会の内容及び講師・運営担当確認</li> <li>◎第3回緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会の内容及び講師・運営担当確認</li> <li>◎令和4年度緩和ケア研修会(12/18 井田病院にて実施)の確認</li> </ul>
10月4日 16:00～	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎第2回かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会の報告</li> <li>◎第3回緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会の内容及び講師・運営担当確認</li> <li>◎第3回かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会の内容及び講師・運営担当確認</li> <li>◎第4回緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会の内容及び講師・運営担当確認</li> </ul>
11月1日 16:00～	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎第3回緩和ケアスキルアップフォローアップ研修会について報告</li> <li>◎第3回緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会の内容確認</li> <li>◎第4回緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会の内容確認</li> <li>◎第4回かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会の内容確認</li> <li>◎第5回緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会の内容確認</li> <li>◎第5回かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会の内容確認</li> <li>◎令和4年度緩和ケア研修会(12/18・井田病院にて実施)の確認</li> </ul>
12月6日 16:00～	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎第3回かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会の報告</li> <li>◎第4回緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会の内容及び講師・運営担当確認</li> <li>◎第4回かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会の内容及び講師・運営担当確認</li> <li>◎第5回かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会の内容確認</li> <li>◎第6回かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会の内容確認</li> <li>◎令和4年度緩和ケア研修会(12/18・井田病院にて実施)の確認</li> </ul>
2月7日 16:00～	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎第4回緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会の報告</li> <li>◎第4回かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会の報告</li> <li>◎第5回かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会の内容及び講師・運営担当確認</li> <li>◎第4回緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会の内容及び講師・運営担当確認</li> <li>◎第6回かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会の内容及び講師・運営担当確認</li> <li>◎緩和ケア研修会(12/18・井田病院にて実施)の報告</li> </ul>
3月7日 16:00～	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎第5回かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会の報告</li> <li>◎第6回かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会の内容及び講師・運営担当確認</li> <li>◎令和5年度緩和ケア委員会の確認</li> </ul>

## (2) 緩和ケア研修会

2021年度に引き続き、地域がん診療連携拠点病院として、「緩和ケア研修会」を川崎市立川崎病院と共催で開催しました。並びに「緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会」を実施し、コロナ禍であることを

鑑み ZOOM を併用した研修会も実施しました。

① 緩和ケア研修会

12月18日(日)の1日間で開催しました。今年度は井田病院が主催し、川崎病院が共催しました。

この研修会は、「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」に準拠しており、研修修了者は厚生労働省より緩和ケア研修会修了証書が交付されます。

院内より13人の参加があり、13名全員が修了証書の交付を受けました。

当院の受講率は、2022年9月1日現在で、ア.自施設に所属する臨床研修医100.0%、イ.1年以上自施設に所属するがん診療に携わる医師・歯科医師96.6%、ウ.1年以上自施設に所属するがん診療に携わらない医師・歯科医師66.7%、エ.1年以上自施設に所属していない医師57.1%でした。

令和4年度 川崎市立井田病院「緩和ケア研修会」プログラム

日時	テーマ	時間	担当者	役職・職種	
12月18日 (日)	研修会の開会・開催にあたって	10:00 ～10:15	久保田 敬乃	医師	
	E-learningの復習・質問	10:15 ～11:15	久保田 敬乃	医師	
	地域緩和ケアの取り組み	11:25 ～11:55	濱田 麻里子	看護師	
	昼食休憩				
	『コミュニケーション』 がん医療におけるコミュニケーション 【オリエンテーション】	12:45 ～14:15 ○90分	柴田 滋文 佐藤 恭子 安藤 孝 夏 錦言 三島 牧 西 智弘 梶谷 美砂 栗田 華代 久保田敬乃 秋本 香南 都留 世里 鈴木 果里奈 大河 寿子	医師           看護師 看護師	
	【グループワーク】ロールプレイ ○ロールプレイングによる患者への悪い知らせの伝え方についての演習 ○がんと診断された時から行われる当該患者のがん治療全体の見通しについての説明				
	休憩				



### 緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会 研修参加人数(2022)

回	日時	医師		看護師		コメディカル		合計
		院外	院内	院外	院内	院外	院内	
第1回	5月17日	0	9	2	14	18	8	51
第2回	7月19日	0	6	1	11	23	2	43
第3回	10月18日	1	7	7	12	8	7	42
第4回	12月15日	0	4	0	4	7	8	23
合計		1	26	10	41	56	25	159
		27		51		81		

### 令和4年度緩和ケアスキルアップ・フォローアップ研修会プログラム

1. 時間：18：00～19：00
2. 場所：川崎市立井田病院 2階会議室
3. 参加対象者：医療従事者、介護関係者等で在宅ケア・緩和ケアに従事している方及び関心のある方
4. プログラム日程表

	開催日	テーマ	講師	職種
第1回	5月17日	テーマ：がん患者の疼痛管理 「がん性疼痛の診方-ことはじめ-」 「がんサポートチームの活動について」	久保田 敬乃 鈴木 果里奈	医師 看護師
第2回	7月19日	テーマ：がん終末期の予後関連因子あれこれ 「緊急入院となった終末期患者の予後関連因子についての検討」 「終末期の腫瘍性尿路閉塞」	梶谷 美砂 栗田 華代	医師 医師
第3回	10月18日	テーマ：壮年期がん患者とその家族への意思決定支援 「医師の立場から」 「がん相談支援センターの看護師の立場から」	増田 香織 濱田 麻里子	医師 看護師
第4回	12月15日	テーマ：川崎市のリハビリテーション	齋藤 薫	医師

#### (3) かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会

2021年度に引き続き、地域がん診療連携拠点病院として、第3火曜または木曜日の夜に計6回開催しました。

この症例検討会は、地域のニーズをふまえ地域のネットワーク作りを目指した内容で、2022年度は院内外より延べ246人の参加がありました。第5回は、事例検討をグループワークで行う初の試みを行いました。

かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会 研修参加人数(2022)

回	日時	医師		看護師		コメディカル		合計
		院外	院内	院外	院内	院外	院内	
第1回	6月21日	0	3	13	8	8	3	35
第2回	9月20日	2	8	5	14	7	3	39
第3回	11月15日	1	4	7	13	14	10	49
第4回	1月17日	0	4	5	12	5	2	28
第5回	2月16日	3	5	17	4	19	2	50
第6回	3月14日	1	5	13	10	10	6	45
合計		7	29	60	61	63	26	246
		36		121		89		

令和4年度かわさき在宅ケア・緩和ケア症例検討会プログラム

1. 時間：18：00～19：00
2. 場所：川崎市立井田病院 2階会議室
3. 参加対象者：医療従事者、介護関係者等で在宅ケア・緩和ケアに従事している方及び関心のある方
4. プログラム日程表

	開催日	テーマ	講師	職種
第1回	6月21日	テーマ：対麻痺の在宅療養患者を支える 「医師の立場から」 「訪問看護師の立場から」	大野 洋平 下山 旬三子	医師 看護師(訪問看護ステーション)
第2回	9月20日	テーマ：在宅で困る尿道カテーテル管理とストマトラブル 「医師の立場から『症例』」 「認定看護師の立場から」	栗田 華代 牛込 志乃	医師 看護師
第3回	11月15日	テーマ：在宅終末期における患者家族の意向の支え方 「その人らしく過ごすために」 「薬剤師としてできること」	増田 香織 山崎 瑞恵	医師 薬剤師(カメイ株式会社ヘルスケア事業部ファーマシー事業課)
第4回	1月17日	テーマ：つなぐ看護～院内でシームレスに対応した一例～ 「退院調整看護師の立場から」 「訪問看護師の立場から」	白澤 佳代 坂内 ひろみ	看護師 看護師

第5回	2月16日	テーマ：癌を受容せずサービスを拒否する終末期患者の在宅ケア	木村 一貴	医師
第6回	3月14日	テーマ：下半身麻痺が進行した末期がん患者の看護を振り返って		
		「管理栄養士としてできること」	増井 さゆみ	栄養士
		「レスパイト入院を入れながら自宅療養を継続した利用者と家族への支援」	門山 道子	看護師（訪問看護ステーション井田）

#### (4) 取組内容

##### ア 緩和ケアの現況と課題について

緩和ケア病棟の運営、転院相談、在宅緩和ケア、教育研修などの現況と問題点を委員で確認し課題解決に向けて検討しました。

##### イ 緩和ケア研修会の運営等について

一昨年度からは緩和ケア委員会のメンバーが主体となって運営しました。コロナ禍のため、今年度はZoom 併用で研修会を開催しました。

## 2 来年度に向けて

引き続き緩和ケア全般の課題、問題点を検討していくとともに緩和ケア関連の研修会の運営を委員会のメンバーで担っていきます。また、さらに研修会の講師に外部講師を増やし、地域連携も進めたいと思います。

(文責 委員長[在宅緩和ケアセンター所長] 佐藤 恭子)

## 47 がんサポート・緩和ケア部会

2003年より緩和ケアチームとして活動を始め、2009年6月から専従医師・専従看護師が配置されました。地域がん診療連携拠点病院として、院内および地域のがん患者とその家族に対して、質の高い緩和ケアの提供をめざし「がんサポートチーム」の名称で活動しています。

2018年4月より引き続き、専任医師として久保田敬乃医師が配置されました。2021年7月より引き続き、専従医師として増田香織医師が配置されました。専従看護師は、2019年4月から引き続き、鈴木果里奈（緩和ケア特定認定看護師）が配置されました。その他のチームメンバーは緩和ケア内科医、精神科医、放射線治療科医、薬剤師、栄養士、公認心理師、理学療法士が所属し、多職種が連携してチーム医療を提供しています。

がんサポートチームは、一般病棟に入院中の緩和ケアを必要とする患者を毎日回診し、週2回の合同カンファレンスと週1回のチーム合同回診を行っています。2022年度がんサポートチームの依頼件数は301件でした。2012年から活動を開始した非がんサポートチームの依頼件数は51件でした。非がん疾患患者に対する緩和ケアは、行政の方針においても拡充が求められており、当院でも年々増加傾向にあります。介入の内容は、疼痛緩和、その他の症状緩和、精神的ケア、家族ケア、当院緩和ケア病棟や在宅部門の訪問診療及び訪問看護の介入も含む療養場所の選択、意思決定支援など多岐にわたります。

国の指針である早期からの緩和ケアの推進を具体化させる手段として、2014年5月から緩和ケアに関するスクリーニングを開始しています。2022年度のスクリーニング件数は445件でした。がんと診断された時から患者が切れ目のないケアを受けられるように、がん看護緩和ケア班のリンクナースと協働し、スクリーニングの推進とがん看護・緩和ケアの質の向上のためさまざまな活動を行っています。さらに神奈川県がん診療連携協議会・緩和ケア部会では、県内の病院と緩和ケア提供体制について情報共有を行い、がん患者の療養生活の質の向上に努めています。

(文責 [がんサポートチーム専従看護師] 鈴木 果里奈)

#### 48 病床管理運営委員会

今年度は、病床管理運営要領について、新型コロナウイルス感染症を勘案した内容に改定しました。また、川崎市立井田病院共同利用病床運営要綱についても現状に合わせた形に改定を行いました。今後も、病床管理運営要領に沿った適切な病床運用・管理を推進いたします。

(文責 書記[医事課] 宿田 友子)

#### 49 ハラスメント防止対策委員会

ハラスメント防止対策委員会は、川崎市立井田病院におけるセクシュアルハラスメント、パワーハラスメント、妊娠・出産・育児又は介護に関するハラスメントの防止及び対策を講じることを目的として2020年8月に設置しました。

2022年度は、ハラスメント防止対策委員会を2回開催しました。相談に対し、ヒアリング、ハラスメントに該当するかの判定、課題整理、必要な介入を行いました。

今後も相談者のプライバシーに十分配慮し委員会としての役割を担っていきたいと考えております。

(文責 委員長[病院長]伊藤 大輔)

#### 50 糖尿病サポートチーム委員会

半田前糖尿病内科部長の時代に立ち上げられた糖尿病サポートチームは井田病院の糖尿病診療を支えてまいりましたが、2021年度より院内委員会の1部門として承認され、以前と同様に糖尿病療養指導の質の向上を図るべく活動しております。活動内容といたしましては、糖尿病診療機器、様々な教育用機器を利用した注射指導などの知識や経験の共有を昨年度に引き続き行いました。また院外・院内における糖尿病チームの在り方や対外的な周知活動、院内広報活動をいかにすべきか、糖尿病や合併症、関連疾患について院内パラメディカルの教育目的の勉強会の在り方につきチーム内でサブグループを作り協議いたしました。協議した内容をもとに2023年以降のチーム委員会を活動運営していく予定です。今後は新型コロナウイルス感染症で開催できなかった患者会の開催、年1回の世界糖尿病デーのイベントの施行なども含め井田病院の糖尿病診療に厚みを持たせること、さらに人手不足になりがちな療養スタッフの充実を図ることを目標に時代の診療の流れに乗り遅れることなく活動して参りたいと思います。

(文責 委員長[糖尿病内科部長] 金澤 寧彦)

## 51 認知症ケア運営委員会

認知症ケア運営委員会は、2021年4月に院内委員会に設置されました。認知症ケアサポート医、認知症看護認定看護師、作業療法士、ソーシャルワーカー、病棟リンクナースとともに連携し、院内の認知症ケアの向上のため、週1回のチーム回診を行っております。委員会は毎月第2週金曜日に開催し、2022年度は12回開催しました。認知症患者の周辺症状やせん妄の対応について協議し、事例の検討やスキルアップのための勉強会を行いました。今後も病棟リンクナースとともに連携し、質の高い認知症ケア、看護を提供できるように努めていきたいと思っております。

(文責 委員長[リハビリテーション科・脳神経外科担当部長] 三島 牧)

# VIII 取得図書



## 1 利用統計(図書室所蔵資料等の統計)

### 1 単行書

単行書	冊数
洋書	201
和書	4170
計	4371

(2023年3月31日現在)

### 2 製本雑誌

製本雑誌	冊数
洋雑誌	848
和雑誌	1890
計	2738

(2023年3月31日現在)※製本は2020年度より廃止

### 3 相互貸借

申入件数	受付件数
90	558

(2022年4月1日～2023年3月31日)

### 4 メディカルオンライン利用統計

PDFダウンロード件数	5449
FAX取り寄せ件数	9

(2022年4月1日～2023年3月31日)

### 2 単行書受入

洋書 2冊  
和書194冊  
視聴覚資料 17点

### 3 EBMツール

1 UpToDate Anywhere  
2 DynaMed  
3 今日の診療

### 4 文献検索ツール

1 医学中央雑誌Web  
2 最新看護索引Web

### 5 電子書籍ツール

1 メディカルオンライン  
イーブックスライブラリー

## 6 現行受入雑誌(洋雑誌)

- 1 Anesthesiology (Online)
- 2 Arthritis and Rheumatology (Online)
- 3 Cancer(Online)
- 4 Chest(Online)
- 5 Clinical Infectious Diseases (Online)
- 6 JAMA
- 7 Journal of Clinical Oncology (Online)
- 8 New England Journal of Medicine

### ・電子ジャーナルパッケージ (洋)

- 1 ProQuest Medical Database
- 2 Medline with Full Text
- 3 ClinicalKey

### (和)

- 1 メディカルオンライン
- 2 医書.jp

## 7 現行受入雑誌(和雑誌)

- 1 Expert Nurse
- 2 INFECTION CONTROL(感染対策室別置)
- 3 INNER VISION(放射線科別置)
- 4 Orthopaedics
- 5 Visual Dermatology
- 6 画像診断(放射線科別置)
- 7 クインテッセンス
- 8 クインテッセンス デンタルインプラントロジー
- 9 月刊ナースマネジャー
- 10 重症集中ケア
- 11 腫瘍内科
- 12 ソーシャルワーク実践研究(地域医療部別置)
- 13 日経ドラッグインフォメーション(薬剤部別置)
- 14 メディカル・テクノロジー(検査科別置)
- 15 レジデントノート
- 16 看護
- 17 看護技術
- 18 看護人材教育
- 19 看護展望
- 20 緩和ケア

- 21 救急医学
- 22 月刊ナーシング
- 23 月刊新医療
- 24 消化器外科
- 25 消化器内視鏡(内視鏡C別置)
- 26 心エコー(検査科別置)
- 27 全国自治体病院協議会雑誌 \*
- 28 地域連携・入退院支援
- 29 日本医師会雑誌 \*
- 30 日本外科学会雑誌 \*
- 31 日本透析医学会雑誌 \*
- 32 日本内視鏡外科学会雑誌 \*
- 33 日本病院会雑誌 \*
- 34 日本臨床外科学会雑誌 \*
- 35 病院安全教育
- 36 保健師・看護師の結核展望
- 37 臨床リウマチ \*
- 38 臨床栄養(食養科別置)

\*は寄贈雑誌

**川崎市立井田病院年報**

第52号 (2022年度版)

令和5年(2023年)12月発行

編集・発行 川崎市立井田病院

〒211-0035 川崎市中原区井田2丁目27番1号

電話 044(766)2188(代)

FAX 044(788)0231